

県大会決勝戦 戦 評 用 紙

(記録抄用)

大会名	平成29年度 三重県高等学校バレーボール新人大会 兼 東海高等学校バレーボール選抜大会三重県予選大会 (6人制 男子)			参加数	38
期 日	平成30年2月10日 2月11日		会 場	サオリーナ	
戦 績	1位	皇學館高等学校		3位	松阪工業高等学校
	2位	津工業高等学校		4位	海星高等学校
戦 評 皇學館 2 $\begin{pmatrix} 25-14 \\ 25-16 \end{pmatrix}$ 0 津工業 R(高林 紘) U(磯田 泰輔) 新人戦ということで、どのチームが勝ち上がるか予想が難しい中、互いに準決勝での激闘を制した、皇學館高校と津工業高校の対戦となった。 第1セット 序盤、皇學館はレセプションが乱れるも②が高い打点のスパイクを決め、津工業は高さこそないものの、早いトス回しとフェイントでサイドアウトを取り合う展開となる。8-8から皇學館が3連続得点し均衡が崩れ始める。津工業はサーブで崩され攻撃が単調になり、なんとか返すも皇學館の②⑤のレフト攻撃により失点を重ねた。中盤以降、リズムをつかんだ皇學館が安定した試合運びで第1セットを奪った。 第2セット 序盤から皇學館がサーブで攻めてリズムに乗る。津工業は焦りからミスが出てしまい、連続得点することができない。皇學館は②⑤の両レフトが高いトスを打ちきり、試合の主導権を渡さない。序盤で得点を広げた皇學館がそのまま逃げ切り、第2セットを連取し、優勝を決めた。 全体を通じ、選手権予選でコートに立ったメンバーが多く残り、180cm以上の選手が揃う皇學館が、試合を優位に運ぶことができていた。決勝に進めなかったチームを含め、互いに切磋琢磨し、夏に行われるインターハイで良い結果が残せるよう、これからの頑張りに期待したい。  戦評者名(高体連強化委員 大西 啓介)					
備考	1. 各種別、男女毎に戦評をする。 2. 戦評は250字程度でまとめる。 3. リーグ戦で決勝戦の無い大会は、大会全体の所感をまとめる。				

三重県バレーボール協会

県大会決勝戦 戦 評 用 紙 (記録抄用)

大会名	平成29年度三重県高等学校 バレーボール新人大会		男 女	⑥ 9	参加数	43チーム
期 日	平成28年2月 10日 2月 11日	会 場	三重高校 松阪商業高校 サオリーナ			
戦 績	1位	三重高等学校	3位	四日市商業高等学校		
	2位	津商業高等学校	4位	津田学園高等学校		
戦 評 $\text{三重高等学校} \quad 2 \quad \left(\begin{array}{c} 25-14 \\ 26-12 \end{array} \right) \quad 0 \quad \text{津商業高等学校}$ R(森西 基雄)・U(大塚 雄司)・IF(不殿 絵里加) 平成29年度インターハイ出場の津商業と、春高出場の三重高校の決勝戦。過去2年間でインターハイと春高出場が2回ずつと経験値もほぼ互角であることから、今大会も接戦が予想された。 津商業は、1年生からレギュラーでインターハイ出場の立役者三林愛理を中心に、身長170センチ以上の選手を揃えた。対する三重高校は、こちらも1年生から三重高校のエースとしてチームを牽引してきた福本夏海や津商業の高さに匹敵する山川亜海、村尾瞳、城野怜奈をスターティングメンバーに入れ、両チームともブロックの高さと攻撃力が魅力のチームである。 試合は、三重高校が福本夏海や山川亜海を中心に選手全員が躍動し、津商業を圧倒した。津商業はエース三林や日置菜々恵の豪快なスパイクで流れを引き寄せようとするが、三重高校のブロックと粘りが勝り、津商業の追撃を許さずセットカウント2対0で三重高校が優勝した。 上位4チームは東海選抜大会への出場権を獲得しており、三重高校、津商業だけではなく、3位の四日市商業、4位津田学園も今大会を通して、成長が見受けられた。選抜大会での三重県勢の活躍を期待したい。 (強化委員 梶野道宏)						
備考	1. 各種別、男女毎に戦評をする。 2. 戦評は250字程度でまとめる。 3. リーグ戦で決勝戦の無い大会は、大会全体の所感をまとめる。					

三重県バレーボール協会